

川崎市で産官学連携のキックオフシンポジウムを開催しました(2018/3/15)

テーマ：川崎市，市民向け講演，産官学連携
場所：ラゾーナ川崎プラザソル（神奈川県川崎市）

2018年3月15日(木)に、ラゾーナ川崎プラザソル（神奈川県川崎市）で、当研究所，東京大学地震研究所，富士通株式会社，川崎市の共催，内閣府政策統括官（防災担当），気象庁の後援によるシンポジウム「津波被害軽減へのICTの活用 - 産官学連携によるチャレンジ -」を開催しました。本シンポジウムは2017年11月に開始した，産官学連携による川崎市を舞台にした地域カスタマイズ型津波減災技術に関する共同プロジェクトのキックオフ，兼，防災講演会であり，臨海部の企業や自主防災組織を中心に170名にご参加頂きました。参加者の関心が高く，講演後は多くの質問を頂きました。

シンポジウムでは，川崎市の福田紀彦市長，富士通の北岡俊治執行役員常務が開会の挨拶を行い，西出則武氏（前・気象庁長官，株式会社富士通研究所 顧問，東北大学 特任教授）と当研究所の今村文彦所長が基調講演を行い，川崎市の高橋実危機管理室長，東京大学地震研究所の古村孝志教授，富士通研究所の鈴木祥治取締役による講演が行われました。また，パネル展示セッションでは，当研究所災害リスク研究部門の大石裕介特任准教授（客員），牧野嶋文泰学振特別研究員が研究成果の紹介を行いました。共同プロジェクトを通じて，リアルタイムで津波解析を行い，これらの情報を活用して，適切な避難等が出来るように支援をしていき，その成果を「川崎モデル」として構築し，地域も適用できるように尽力していきたいと考えています。



左から高橋 危機管理室長（川崎市），古村 教授（地震研），今村 所長，福田 市長，北岡 執行役員常務（富士通），西出 特任教授（東北大），鈴木 取締役（富士通研）



福田 川崎市長



基調講演を行う今村所長



会場風景



展示パネル



パネルセッション



会場からの質疑